



第4回 名古屋駅周辺まちづくり推進懇談会

平成31年1月28日（月）

名古屋市



目 次

| | | |
|---|-----|------|
| 1. これまでの経緯 | ・・・ | 2 P |
| 2. リニア中央新幹線に関する動き | ・・・ | 4 P |
| 3. 名古屋駅周辺まちづくりに関する動き | | |
| (1) リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ） | ・・・ | 9 P |
| (2) 名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ） | ・・・ | 12 P |
| (3) 地区毎の特色を活かしたまちづくり | ・・・ | 23 P |
| (4) 名古屋駅周辺の防災性の向上 | ・・・ | 24 P |
| (5) ささしまライブ24地区の状況 | ・・・ | 25 P |
| 4. 関連プロジェクト | | |
| (1) 都心部まちづくりビジョン策定に向けて | ・・・ | 28 P |
| (2) 新たな路面公共交通システムの実現をめざして ～SRT（Smart Roadway Transit）構想～ | ・・・ | 31 P |
| (3) 都市機能の強化 | ・・・ | 33 P |

1. これまでの経緯



| | リニア中央新幹線 | 名古屋駅周辺まちづくり |
|-----------|---|--|
| 平成26～28年度 | <ul style="list-style-type: none">● 工事实施計画（その1）認可（H26.10月）● 用地協定締結（H27.1月）● 名城非常口工事着工（H28.6月）● 名古屋駅（駅中央部）工事着工（H28.12月） | <ul style="list-style-type: none">● <u>名古屋駅周辺まちづくり構想策定（H26.9月）</u> |
| 平成29年度 | <ul style="list-style-type: none">● 工事实施計画（その2）認可（3月） | <ul style="list-style-type: none">● ささしまライブまちびらき（10月）● <u>名古屋駅周辺交通基盤整備方針策定（3月）</u>● 民間投資促進包括プラン公表（3月） |
| 平成30年度 | <ul style="list-style-type: none">● 大深度地下使用認可（10月）● 名城変電所工事着工（12月） | <ul style="list-style-type: none">● <u>リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ）</u> <u>名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）</u> <u>策定（1月）</u> |

2. リニア中央新幹線に関する動き



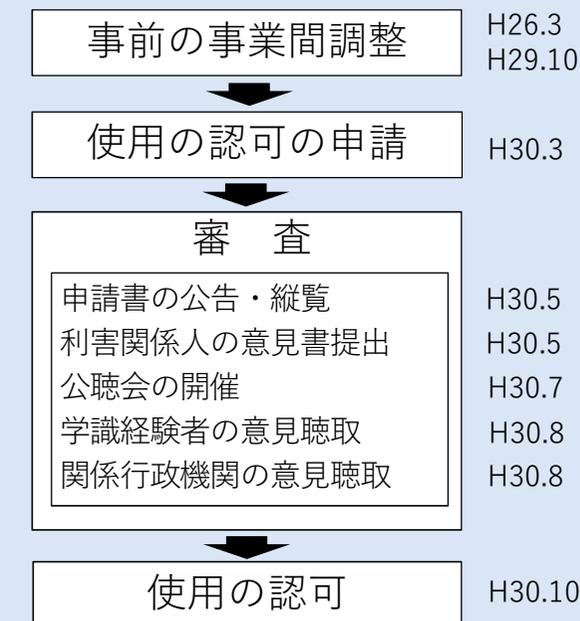
■名古屋市内におけるリニア中央新幹線建設の状況

平成30年12月、名城変電所工事に着手。名古屋駅、名城非常口と合わせ市内3カ所で建設工事を実施中。
また、平成30年10月、国土交通省において大深度地下を活用したトンネル敷設が可能となる大深度地下の使用を認可。



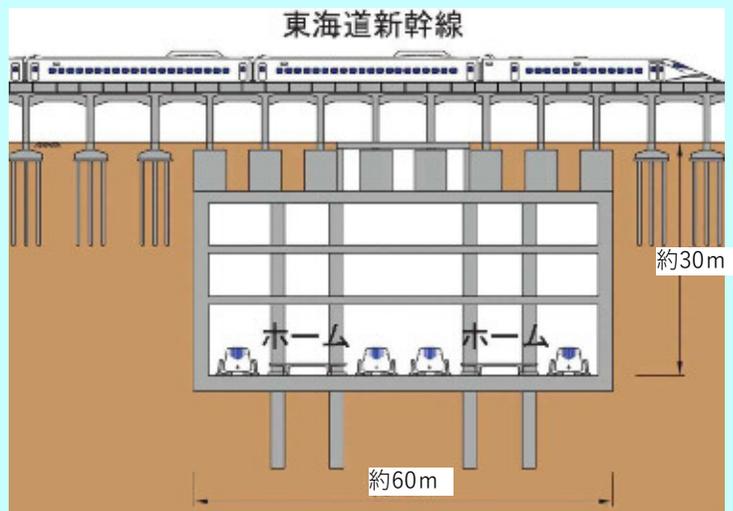
- ①名古屋駅（中村区）
…JR名古屋駅地下における駅の建設
- ②名城非常口（中区）
…名城東小公園跡地における非常口の建設、
名古屋駅及び勝川非常口へのトンネルの敷設
- ③名城変電所（中区）
…愛知県産業貿易館本館跡地における変電所の建設、
名城非常口への電気洞道の敷設

大深度地下使用の認可経過



①名古屋駅

○施設概要



出典：JR東海 環境影響評価書(愛知県)のあらまし(平成26年8月)

○工事状況



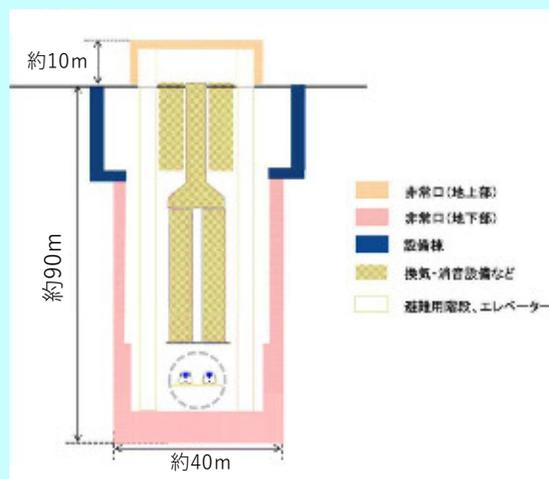
出典：JR東海ウェブサイトより

[左図]工事桁の基礎杭打設工(在来線)(平成29年12月)

[右図]地中連続壁工(新幹線)(平成30年9月)

②名城非常口

○施設概要



出典：JR東海 中央新幹線名城非常口新設工事における環境保全について(平成28年10月)

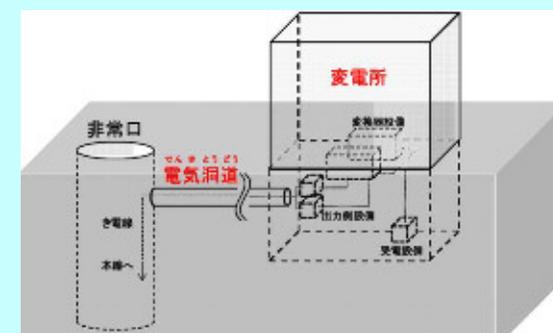
○工事状況



立坑掘削工(平成30年12月)

③名城変電所

○施設概要



出典：JR東海 中央新幹線名城変電所ほか新設工事における環境保全について(平成30年12月)

○工事状況



準備工(平成30年12月)

3. 名古屋駅周辺まちづくりに関する動き



■名古屋駅周辺まちづくりの概要

「名古屋駅周辺まちづくり構想」の実現を図るため、構想に掲げる10の主要プロジェクトについて、関係事業者との調整等を実施

■主要プロジェクト

○まちづくり関連プロジェクト

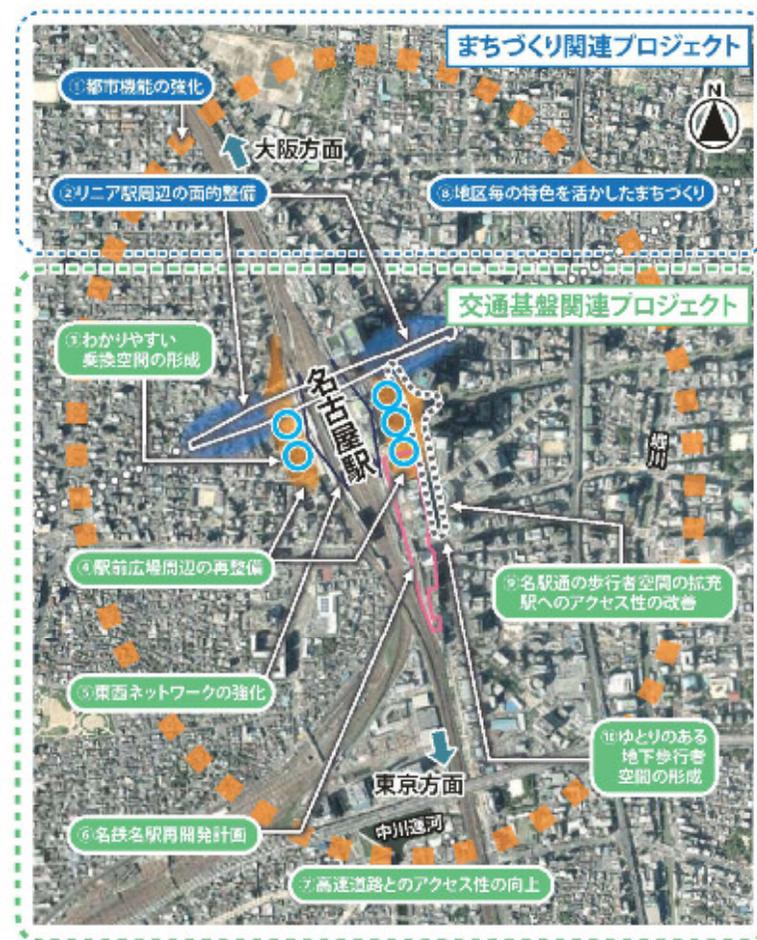
- ①都市機能の強化
- ②リニア駅周辺の面的整備
- ⑧地区毎の特色を活かしたまちづくり

○交通基盤関連プロジェクト

- ③わかりやすい乗換空間の形成
- ④駅前広場周辺の再整備
- ⑤東西ネットワークの強化
- ⑥名鉄名駅再開発計画
- ⑦高速道路とのアクセス性の向上
- ⑨名駅通の歩行者空間の拡充
駅へのアクセス性の改善
- ⑩ゆとりのある地下歩行者空間の形成



〔平成26年9月策定〕



〔構想に掲げる10の主要プロジェクト：
「名古屋駅周辺交通基盤整備方針」より〕

(1) リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ）〔プロジェクト②〕

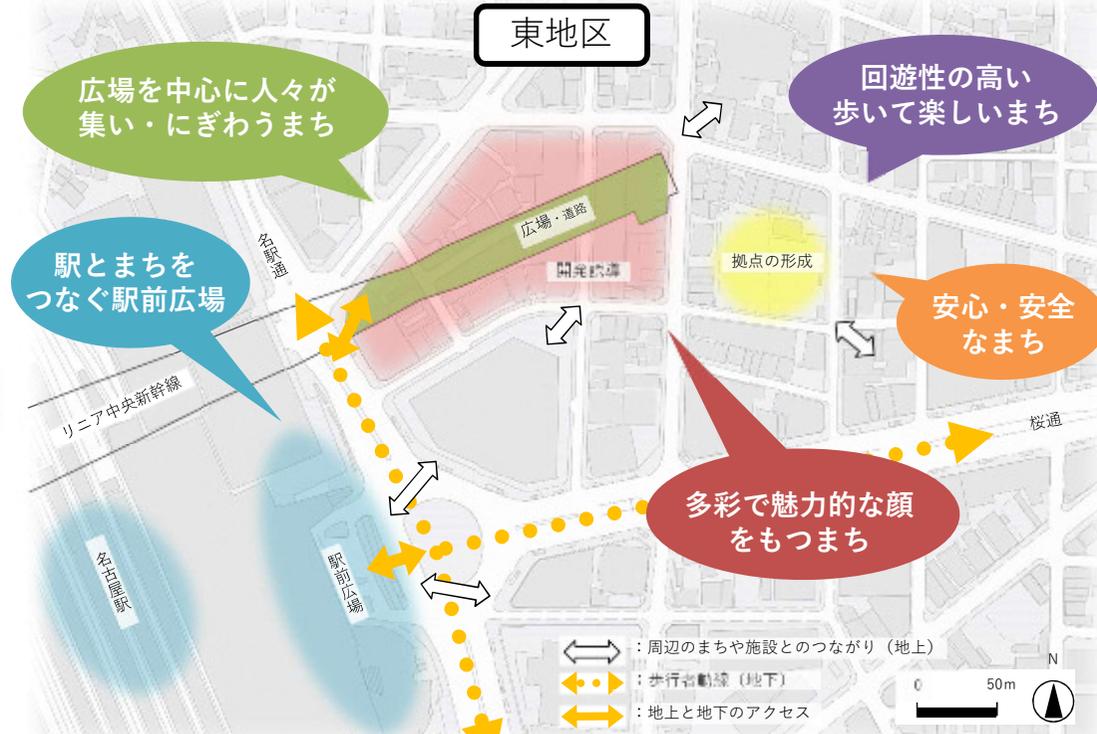
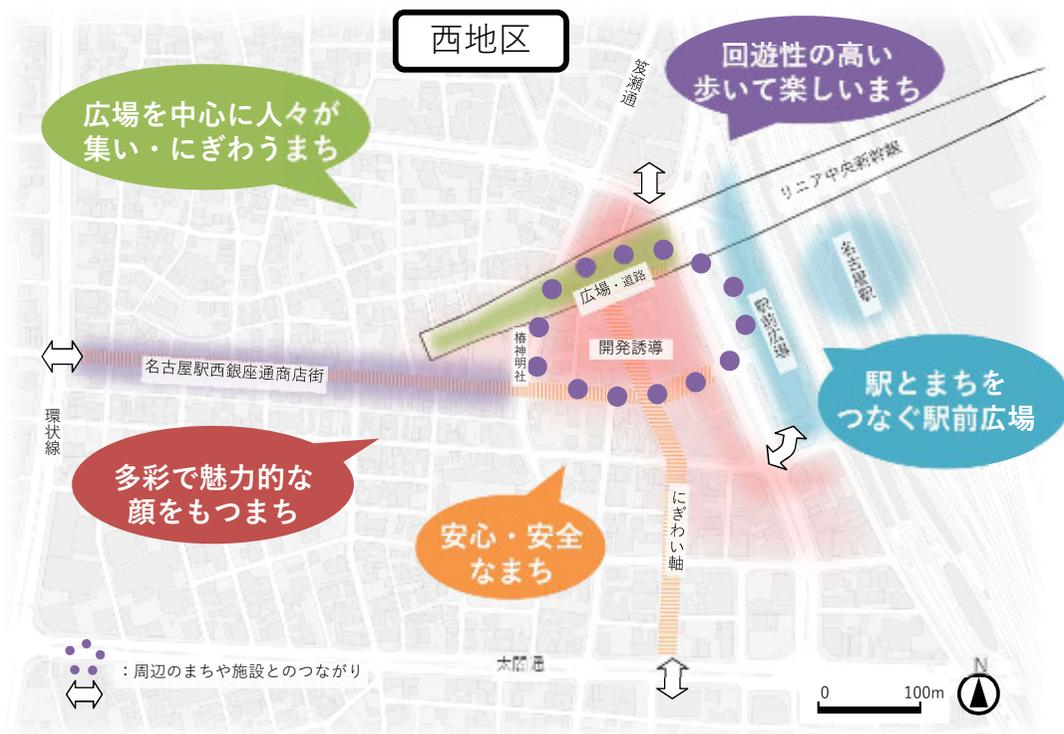
■目的

リニア駅上部空間及び周辺街区のまちづくりを進めるため、目標とするまちの姿や、取り組みについて、今後の方向性を示すもの

■目標とするまちの姿

人々が集い、憩い、交流する広場が中心にあるまち

■将来のまちのイメージ



■ 取り組みイメージ

西地区

- ・ 広場整備・道路の再配置
- ・ 広場等へ顔を向けた開発誘導及び駅周辺の高度利用促進
- ・ 街並み・景観のルールづくり
- ・ 駅とまちをつなぐ開放性の高い広場を駅前広場に配置
- ・ 魅力ある地域資源の活用



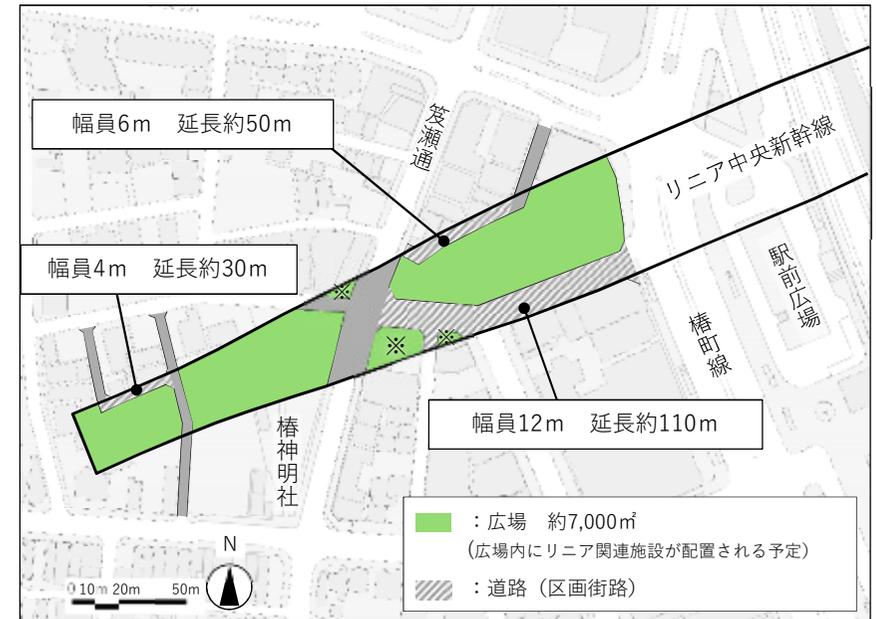
▲ 緑あふれる広場のイメージ
(笈瀬通より西側)



▲ イベント広場のイメージ
(笈瀬通より東側)
(広場内にリニア関連施設が配置される予定)

東地区

- ・ 広場整備・道路の再配置
- ・ 広場等へ顔を向けた開発誘導及び駅周辺の高度利用促進
- ・ 街並み・景観のルールづくり
- ・ 駅とまちをつなぐ駅前広場等の整備
- ・ 魅力ある地域資源の活用
- ・ 市有地を活用した新たな拠点の形成

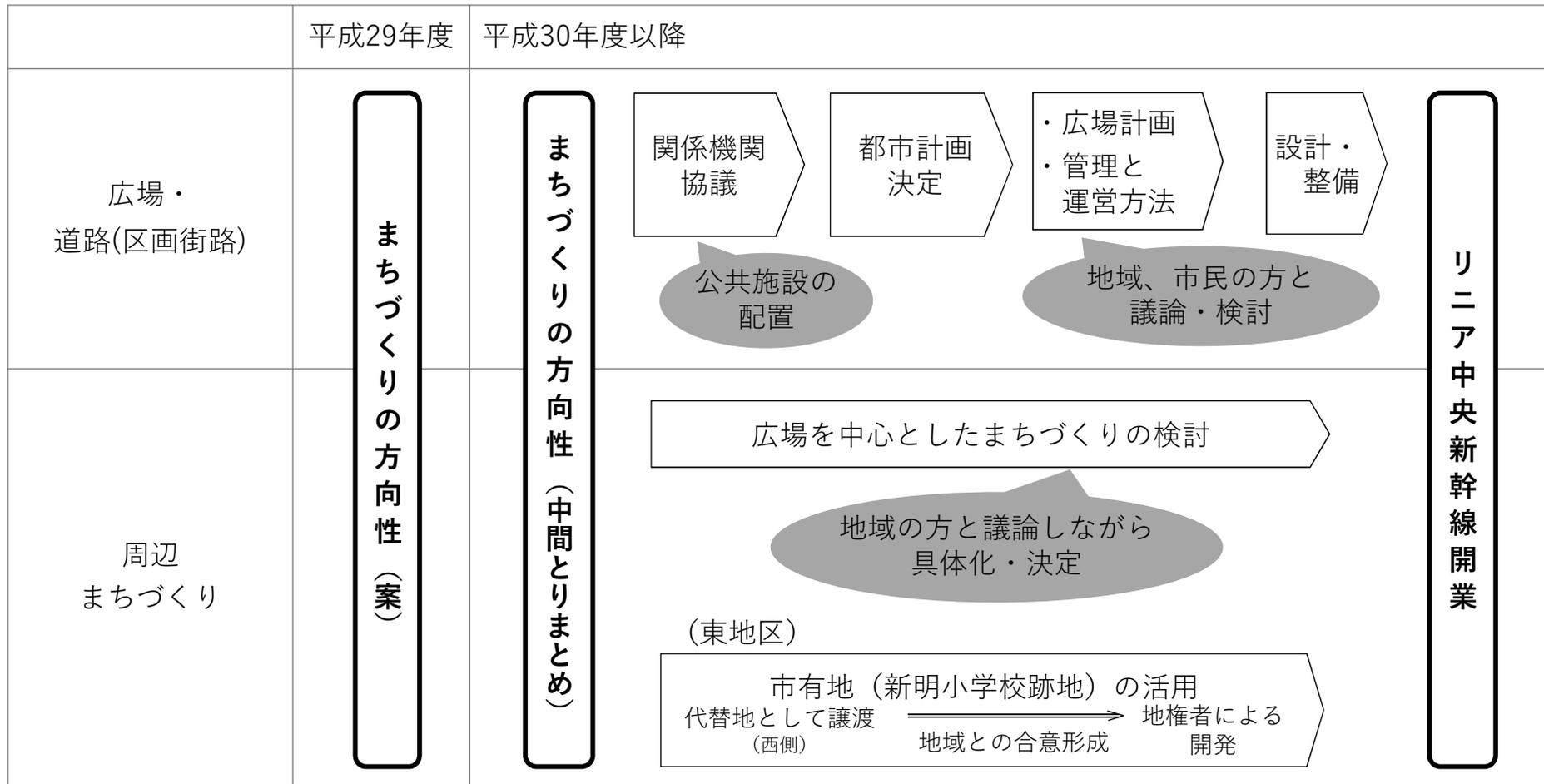


- ・ リニア関連施設はできる限り広場空間と調和するように配置
- ・ ※印箇所にリニア関連施設が配置される場合は、広場とまらない可能性あり



- ・ リニア関連施設はできる限り広場空間と調和するように配置

■スケジュール



リニア中央新幹線開業

■まちづくりの体制

- ・ 地域住民・市民・事業者・町内会・まちづくり協議会・名古屋市等のそれぞれが担い手
- ・ 各々の取組内容や時期に応じて、主体となる担い手の方々が参加し、議論できる場や情報の提供等必要な支援を実施
- ・ 持続的なまちのあり方（展開）についても併せて検討・意見交換する場の提供・支援を実施

(2) 名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）〔プロジェクト③④⑤⑨⑩〕

■目的・位置付け

名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）

- 「名古屋駅周辺まちづくり構想」や「名古屋駅周辺交通基盤整備方針」における名古屋駅の将来の考え方や方向性等をもとに、これまで協議や検討を進めており、現時点における検討内容のとりまとめとして、
駅前広場の再整備の基本コンセプト／東側エリアの再整備の方向性／西側エリアの検討の方向性等について示すもの。
- 本再整備プランをもとに、市民や民間事業者、まちづくり団体等のご意見を取り入れながら、引き続き検討を進める。

名古屋駅周辺まちづくり構想

平成26年9月策定

リニア開業後のまちを見据え、多様な主体がまちづくりを進めるための共通目標となる基本方針と具体的な取組みを示したもの。

■ 目標とするまちの姿

世界に冠たるスーパターミナル・ナゴヤ
 国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまちー
 高いレベルの機能性を備えたまちづくりを各関係者が協働して進めるとともに、広く市民参加、市民が主体となり、引き続きまちを創ります。

■ まちづくりの基本方針

[基本方針1] 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・核を目指す

- (1) 国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する
- (2) 玄関口にあふさわしい風情とにぎわいを醸成させるまちづくりを進める
- (3) ビジネス拠点・交流拠点をあふさわしい安全性を確保するとともに、環境負荷の少ないまちを形成する

[基本方針2] 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- (1) 初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する
- (2) リニアの速達性を活かすなど交通機関間の乗換利便性を向上する

[基本方針3] 都心における多彩な魅力をもったまちづくり、つなぐ

- (1) 城下町から超電磁ビル群まで新旧の交差した多様なまちの魅力を育て、活かす
- (2) 人が主体の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める

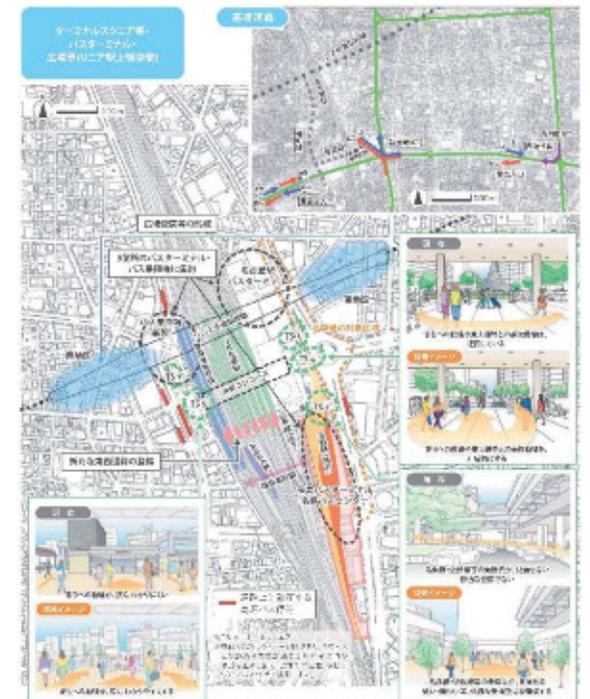
[基本方針4] リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって都市の構想を実現する

- (1) まちづくり構想を実現するため、行政がリーダーシップを発揮するとともに、行政と民間、民間相互など様々な主体が連携・協働してまちづくりを推進する

名古屋駅周辺交通基盤整備方針

平成30年3月策定

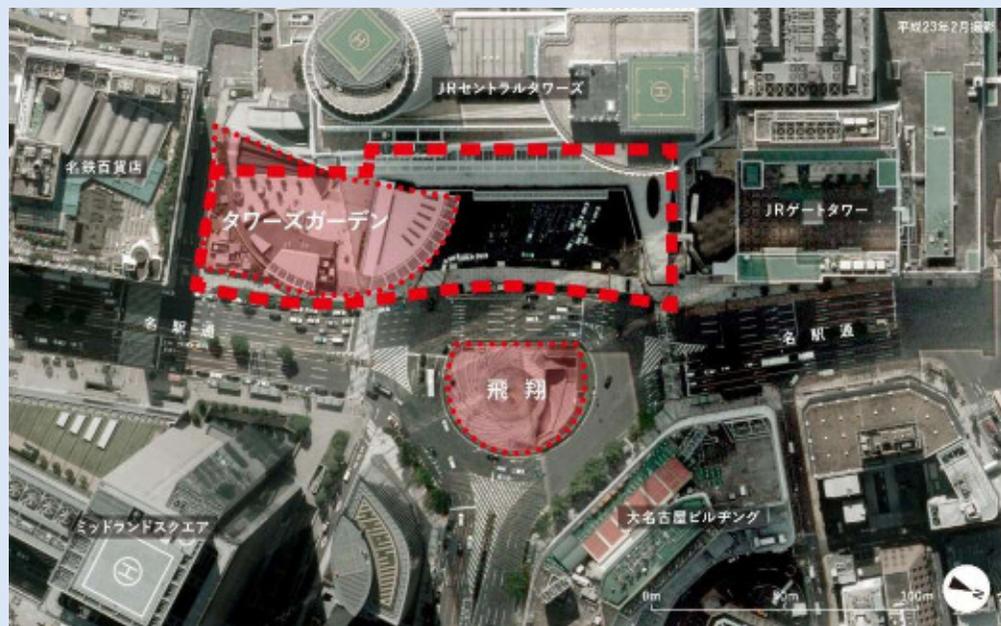
構想に掲げる主要プロジェクトのうち、交通基盤関連プロジェクトを中心に各交通施設について、今後の整備内容を具体化するための方向性を示したもの。



■現状と課題

■東側エリア

駅前のロータリー交差点や一般車降車場・タクシー乗降場の配置により、駅前空間が狭く、また、まちの発展に伴い、人のための空間やまちとのつながりが不足してきている。



- (課題)
- 乗換先やまちへの見通しや動線の阻害
 - 車の動線交錯による安全な交通の阻害
 - 駅とまちのつながりが希薄
 - ターミナル駅にふさわしい風格や魅力が不十分

■西側エリア

西側の駅前空間は、歩行者空間が狭いことなどにより、駅とまちが分断されており、まちとのつながりや回遊性が乏しい空間となっている。



- (課題)
- まちへの見通し・動線の阻害
 - 車の動線交錯による安全な交通の阻害
 - バスの路上乗降による利用者の安全性の低下
 - ターミナル駅にふさわしい魅力や都市機能が不足

■東側エリア/再整備の方向性

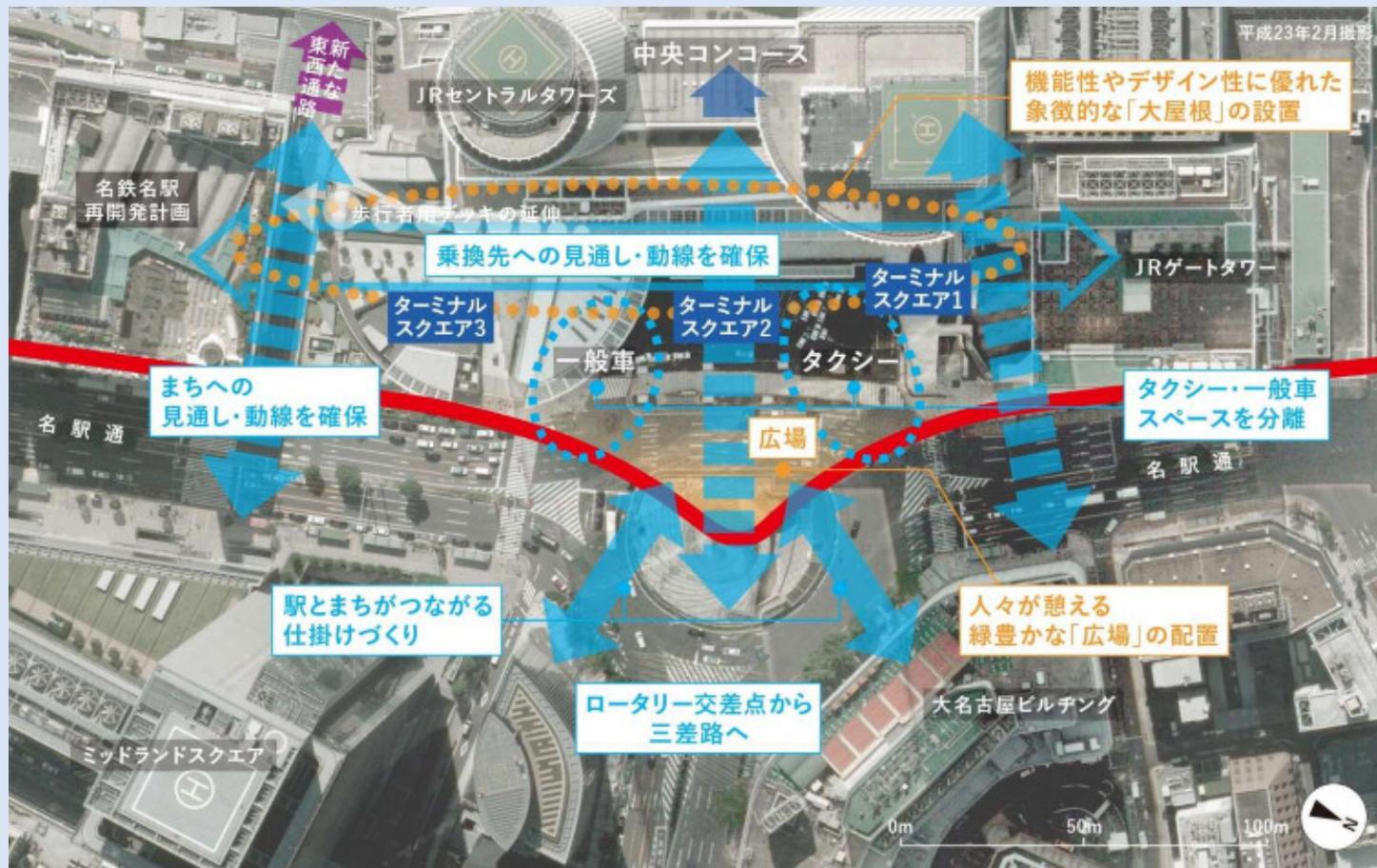
【スーパーターミナル駅にふさわしいインフラ施設配置】

ロータリー交差点の改良等を行い、飛翔の位置まで広場を広げ、まちにつながる歩行者空間、乗換空間等の整備を図る。

【世界の目的地となる名古屋の顔づくりの検討】

「This is NAGOYA」を感じる新たな象徴的な空間形成に向けて、今後、広く意見を伺いながら検討を進める。

■再整備イメージ



※交通施設、昇降施設、屋根等の施設の規模や配置等については、今後引き続き関係者等と協議、調整を進めていく。

※駅前広場内に、交番、案内所、店舗等を配置することを検討中。

■東側エリア／ターミナルスクエアのイメージ

- ◎開放的で直線的な見通しや動線が確保され、乗換先やまちが一目で見渡せ、スムーズな移動ができる。
- ◎乗換空間を一体的に覆う大屋根等によって、雨風から守られ、快適な乗換ができる。



ターミナルスクエア2
中央コンコース前から至東山線中改札階段等方向を臨む



ターミナルスクエア3
中央コンコース前から名鉄側方向を臨む

■西側エリア/検討の方向性

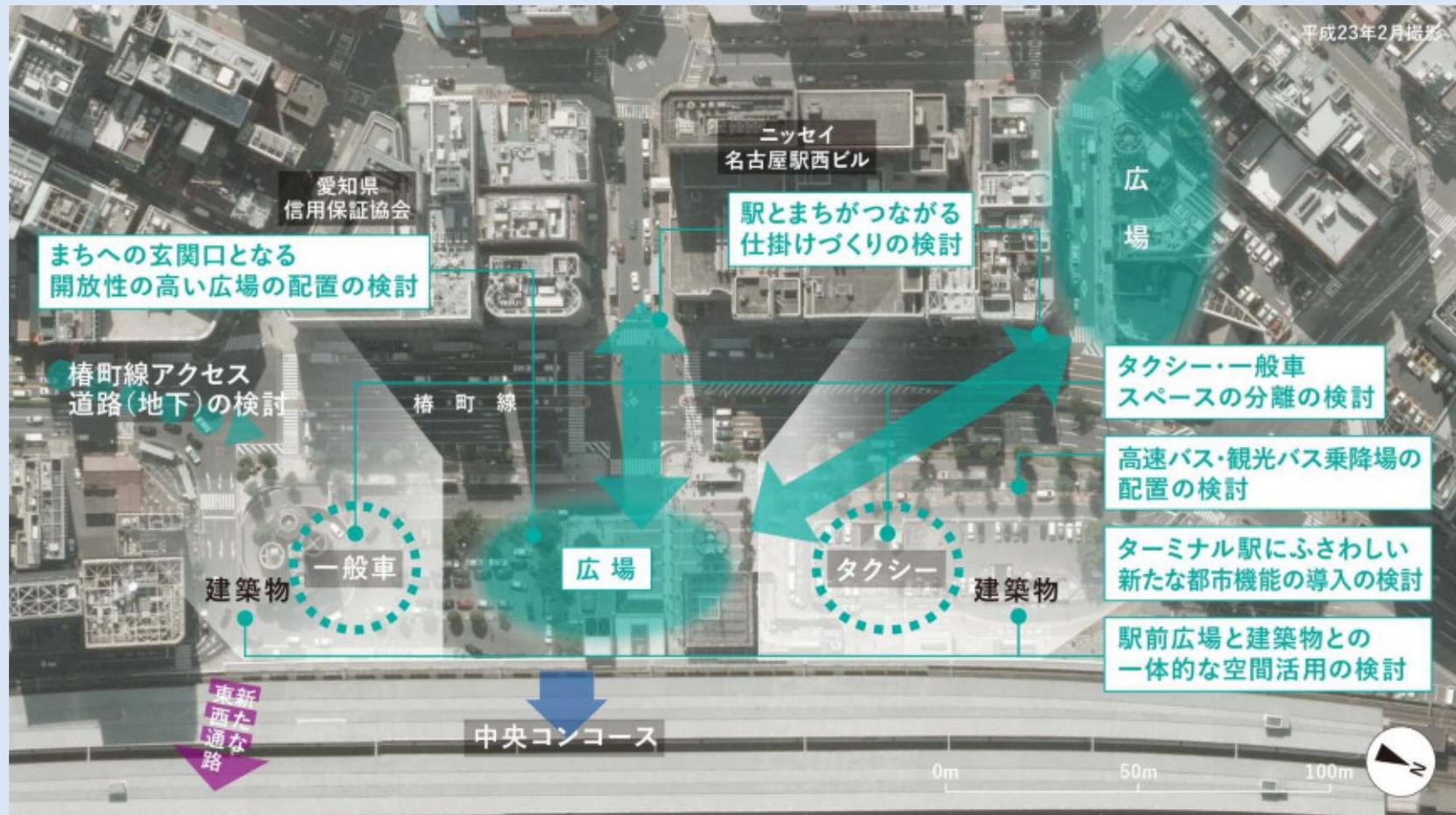
【^{デスティネーション}世界の目的地となる名古屋の顔づくりの検討】

駅とまちとをつなぐ、開放性の高い広場を駅前広場の中央に配置することを検討する。

【スーパーターミナル駅にふさわしい空間活用の検討】

バス乗降場等の交通施設の配置や、新たな都市機能の導入に向けて、駅前広場の多様な空間活用について検討する。

■検討イメージ



※駅前広場と建築物との一体的な空間活用を仮定した場合のイメージ。
 ※駅前広場内に、昇降施設、自転車駐車場等を配置することを検討中。

※交通施設等の施設の規模や配置等については、今後引き続き関係者等と協議、調整を進めていく。

■バリアフリー対応

■主要な乗換動線のバリアフリー対応等

主要な乗換動線のバリアフリー対応

◎各交通モード（鉄道・バス等）をつなぐ主要な乗換動線は、まちへの動線にも配慮し、昇降施設が連続して適切に配置されたバリアフリールートとする。

昇降施設

改札外/エレベーター・エスカレーター(双方向)・階段の集約

改札内/エレベーターまたはスロープ等

主要な乗換動線における昇降施設のイメージ



案内サインの充実

◎案内サインについては、設置の高さや文字の大きさ、色彩等、わかりやすく統一感のある表示となるよう検討する。



■新たな東西通路の整備

◎駅東西の交通施設間の乗換やまちへの動線の利便性を高めるとともに、歩行者が集中する中央コンコースの混雑解消等を図るため、JR広小路口とJR太閤通南口・あおなみ線改札口を結ぶ平面で直線的な新しい東西方向の通路の整備に向けて検討を進める。



■名駅通の歩行者空間の拡充・駅へのアクセス性の改善

◎名駅通においては、周辺の開発計画や「新たな路面公共交通システム(SRT)」と整合を図り、自動車による駅へのスムーズなアクセス性を確保しつつ、道路空間の配分の見直し等による歩行者空間の拡充について検討する。

◎「新たな路面公共交通システム(SRT)」については、名古屋駅から栄や名古屋城など、都心全体の回遊性を高める移動手段として導入を検討しており、駅前広場からの視認性に配慮するなど、再整備等と整合を図りつつ、事業内容の具体化を進める。

■椿町線アクセス道路の検討

◎名古屋駅とのアクセス機能の強化を図るため、椿町線の地下空間を活用したアクセス道路の整備について、事業性や地域への影響などの検討を進める。

検討区間



期待される効果

1. 自動車の専用道路としての信頼性をもって高速へ誘導
2. 速達性を安定的に確保
3. 黄金出入口～駅の所要時間の短縮

■今後の進め方

■民間事業者等との連携・協力

- ◎ 駅前広場の再整備に当たっては、市民、鉄道利用者等の多くの人々が利用する公共的空間として、名古屋市が主体となる公共事業を基本に各鉄道事業者や民間事業者等の連携・協力のもと進める。
- ◎ 施設の管理については、民間事業者やまちづくり団体等と連携した施設管理のあり方について検討していく。

■スケジュール

<東側エリア>

- ・東側の再整備においては、2019年度に駅前広場の都市計画決定を目指し、引き続き関係者と協議を進める。
- ・広場や大屋根をはじめ、名古屋らしさを発信する顔となる空間づくりに関して、広く意見を伺いながら今後検討を進めていく。



<西側エリア>

- ・西側の再整備においては、駅前広場と建築物との一体的な空間活用等について、民間事業者等とのPPPの可能性も視野に入れながら、今後検討を進める。
- ・広場をはじめ、名古屋らしさを発信する顔となる空間づくりに関して、広く意見を伺いながら今後検討を進めていく。



PPP：公共施設等の設計、建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的な使用や行政の効率化を図るもの。

（出典：内閣府／PPP/PFI手法導入優先的検討規程運用の手引）

■高速道路とのアクセス性の向上〔プロジェクト⑦〕

- ・名古屋駅周辺交通基盤整備方針で示した出入口等の設置位置、線形などについて検討し、関係者（交通管理者、道路管理者、道路占用事業者等）協議中。また、環境調査（大気、騒音、振動、交通量）を実施し、対策案を検討中。
- ・上記取り組みを踏まえ、名古屋高速道路公社の協力を得ながら、早期に都市計画案をとりまとめる。

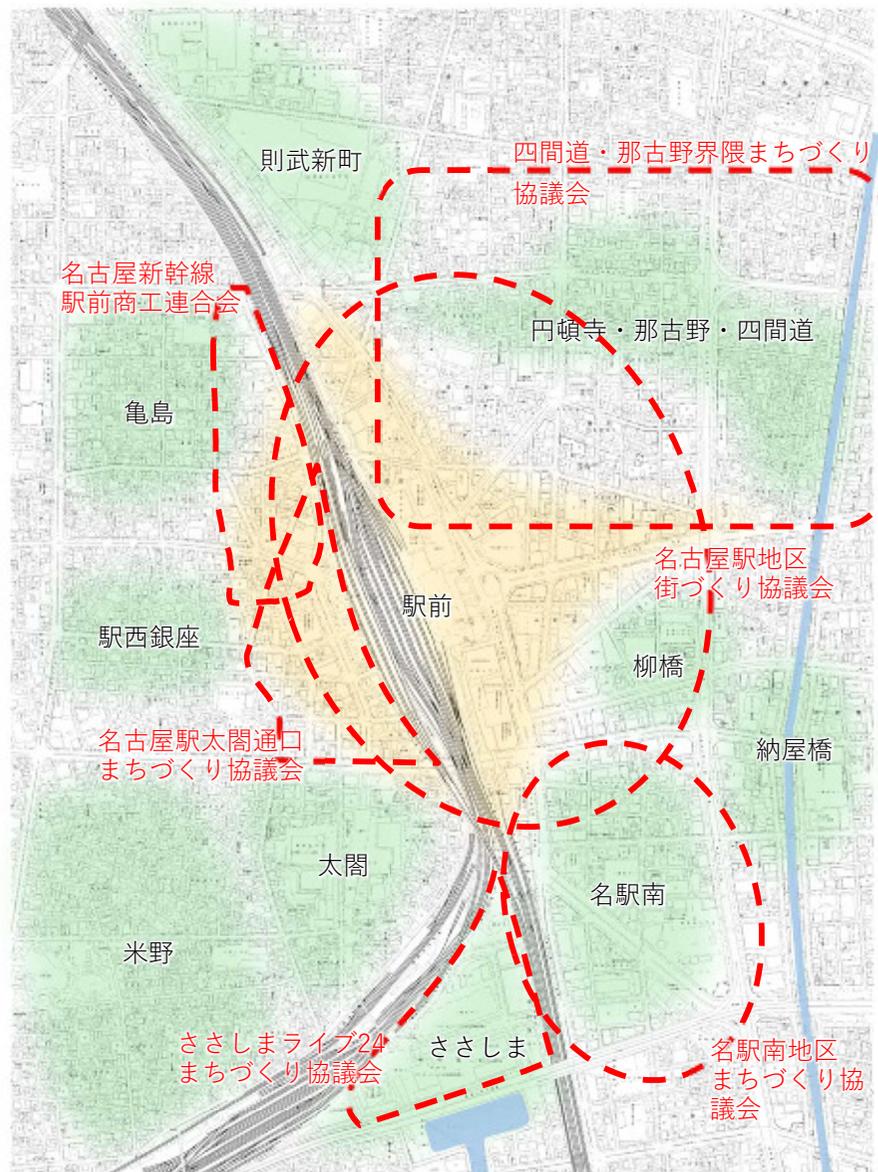
アクセス向上の考え方



（「名古屋駅周辺交通基盤整備方針」（H30.3 策定）より）

(3) 地区毎の特色を活かしたまちづくり〔プロジェクト⑧〕

地域資源を活かしたまちづくりの推進等により、都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく



■地元まちづくり団体の取組み状況

| 団体名 | 取組み状況 |
|-------------------|--|
| 名古屋駅地区街づくり協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリア防災（水害・地震）対策・検討 ・賑わい創出を目指した施策の実施・検証 ・国家戦略特区による道路占用事業の実施 |
| 名古屋駅太閤通口まちづくり協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・椿まちづくりビジョンの具体化（まちのルールづくり等）の検討 ・椿フェスタの拡充等 |
| 名古屋新幹線駅前商工連合会 | <ul style="list-style-type: none"> ・街路灯・防犯カメラの設置・維持管理 ・なごやりニアフロント計画の作成等 |
| 四間道・那古野界限まちづくり協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・四間道・那古野界限まちづくり構想の具体化検討（まちづくり勉強会の実施等） |
| ささしまライブ24まちづくり協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・シャトルバスの社会実験運行 ・地区内の定期清掃、広場の維持管理 ・イベントの開催等 |
| 名駅南地区まちづくり協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりビジョンの策定 ・地区内の定期清掃、ハンギングバスケットによる空間演出等 |

■地元まちづくり団体への市のサポート

- ・構想づくりやエリアマネジメントの実施に向けた取組みを支援（協議会等での助言、関係者との協議調整のサポート等）

(4) 名古屋駅周辺の防災性の向上

■帰宅困難者対策

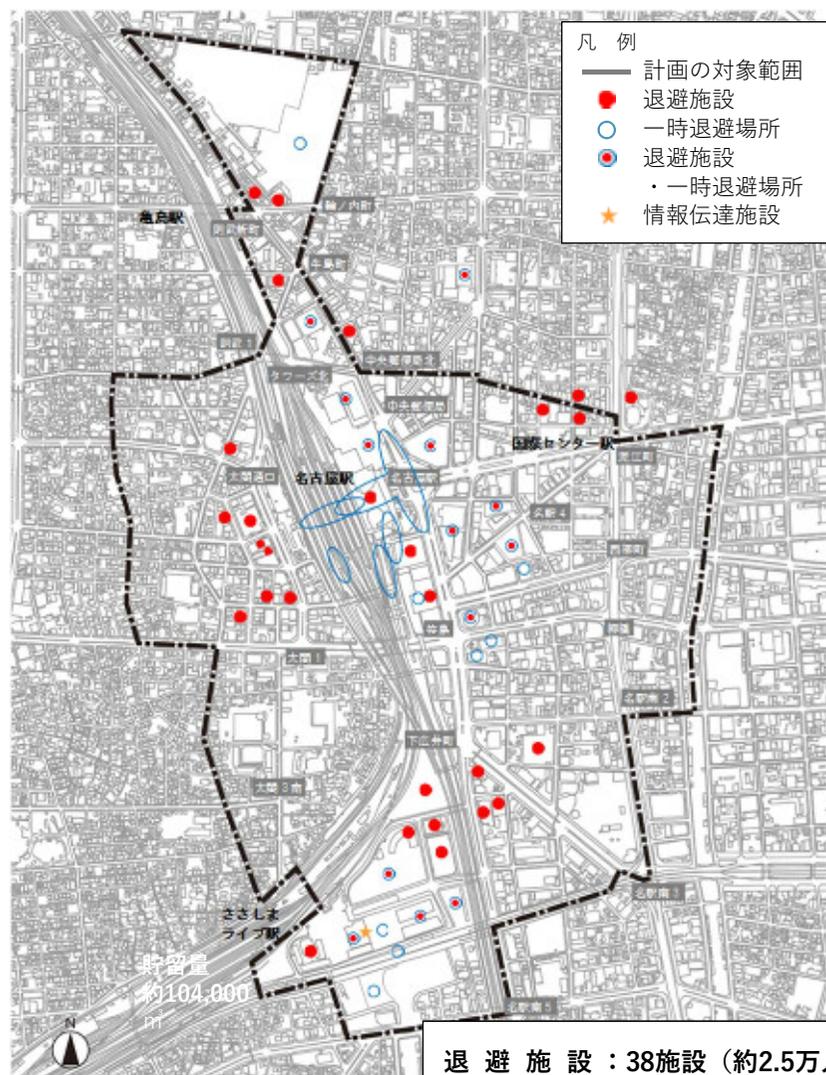
- ・大規模な地震が発生した場合における滞在者等の安全の確保を図るために必要な施設の整備等に関する計画として、第3次名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画を作成
- ・名駅周辺の大規模都市開発が竣工してきたことを踏まえ、帰宅困難者数の見直しや退避施設の拡充等を実施 【H30.5】

■浸水対策

- ・名駅周辺において、平成12年の東海豪雨、平成20年8月末豪雨等を受けて策定した緊急雨水整備基本計画及び第2次緊急雨水整備計画に基づき緊急雨水整備事業を実施 【H26～36(予定)】
- ・堀川の五条橋地区における河川整備を、平成30年1月に国土交通省「100mm/h安心プラン」に登録し、平成30年度整備に着手

「100mm/h安心プラン」とは、ゲリラ豪雨等による浸水被害に対し、河川事業・下水道事業や避難行動の支援等、官民連携し、浸水被害の軽減を図るための取り組みやプラン等の支援目的で、平成25年度に創設された制度。

〔退避施設・一時避難場所・情報伝達施設の位置図〕



退避施設：38施設（約2.5万人）

一時退避場所：23施設（約5.5万人）

(5) ささしまライブ24地区の状況

■ 整備概要

「国際歓迎・交流の拠点」の形成をめざし、民間施設の誘導と合わせ土地区画整理事業による道路・公園などの都市基盤整備や親水空間の整備を実施



■ 近年の動き

○ まちびらき（平成29年10月）

- ・ 地区内の民間施設がすべて開業



○ 都市計画道路 椿町線・笹島線 本線部の開通（平成30年9月）

- ・ 名古屋駅へのアクセス強化
- ・ 名古屋駅周辺の交通混雑の解消
- ・ 鉄道による地域分断の解消
- ・ 地区の活性化



〔アンダーパス〕



〔チャンネルパークささしま〕

■ エリアマネジメント活動の実施

地区内の地権者等で「ささしまライブ24まちづくり協議会」を設立し、土地利用の方針と建築ルールを定め、良好な環境の維持・賑わいの創出・地域の価値向上などを目的に、様々なエリアマネジメント活動を実施



○ 「ささしまウェルカムバス」の運行

名古屋駅とささしまライブ24地区を直接結び
便利で快適にアクセス



- ・ 平日81往復、休日51往復
- ・ 料金：大人210円、小人100円
- ・ お得な回数券も発売中（10枚1,000円、4枚500円）

○ 「キャナルパークささしま」の活用

この街で働く方、学ぶ方、そして訪れる方々の
憩いや癒しの場となり、また地区の魅力スポット
となる空間づくりを推進



4. 関連プロジェクト



(1) 都心部まちづくりビジョン策定に向けて (平成31年春策定予定)

■ 位置付け

○次期都市計画マスタープランの都心部部分

- ・ 2020年度に策定・公表予定の次期名古屋市都市計画マスタープラン検討にあわせて、名古屋市都市計画審議会 新たな都市づくり検討部会において検討を実施

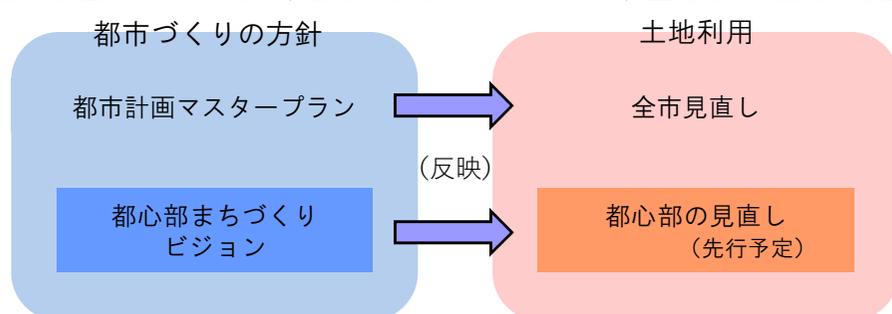
〔 検討委員：福島 茂委員（名城大学副学長・都市情報学部教授） 他7名 〕

- ・ 次期都市計画マスタープランに先行して公表し、都心部部分に反映

○行政と民間で共有できる名古屋都心部の将来像

- ・ 2027年にリニア中央新幹線の開業を迎えるにあたり、民間投資を促進することを目的として、行政と民間で共有できる都心部の将来像を示すもの（平成31年春策定予定）

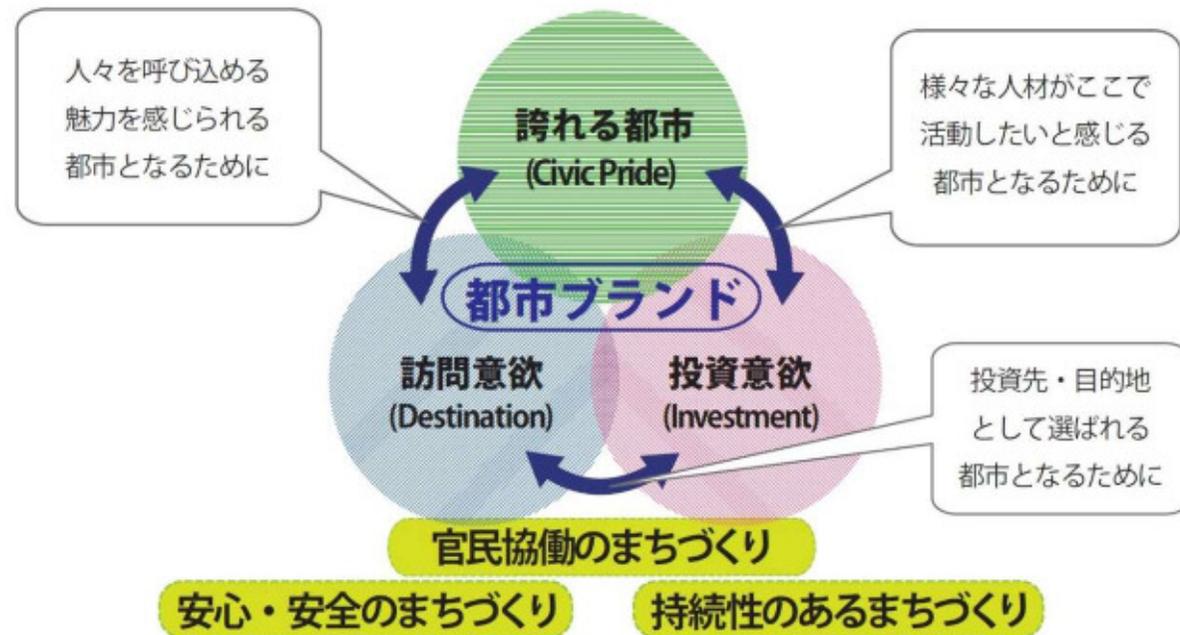
都市計画マスタープラン、都心部まちづくりビジョン、土地利用の検討概念図



■ 策定の視点

- 1) スーパー・メガリージョン形成による効果の最大化
- 2) 技術革新によってもたらされる産業構造の変化への対応
- 3) 来訪者を増やし交流を促進させる都市の魅力づくり
- 4) 圏域の中核機能と調和した都市型ライフスタイルの提示
- 5) 多種多様な市民活動のステージとなる都市環境の構築
- 6) 大規模災害に備えた都市の防災性能・災害対応力の強化
- 7) 持続可能なまちづくりの推進

具体的なまちづくりの目標に置き換え相関図として整理



■ 方針とその将来像

方針1. 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備

将来像

『世界中から多様な人々を呼び込みイノベーションを創出するまち』

- ・リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の開業により名古屋の都心がスーパー・メガリージョンの中心となり、名古屋駅を中心に大交流圏を形成
- ・国内外から多種多様な職種・立場のビジネスパーソンやクリエイティブな人材が集まり、交流が促進
- ・新たなアイデア・価値を生み出す人材の集積や、ベンチャー企業、研究機関等の立地が加速し、従来からの圏域の強みであるものづくり技術と結びつくことにより、イノベーションを創出

方針2. 訪れたいまちを実現する都市魅力の向上

将来像

『快適な都市空間に訪れる人々の賑わいが広がるまち』

- ・再生された久屋大通公園では様々なイベントが開催され、国内外から多くの人々が栄地区を来訪
- ・道路空間が歩いて楽しい歩行者優先のみちへと再配分されるとともに、利便性の高い新たなモビリティの導入や自転車利用環境の向上により回遊性が向上し、都心を訪れる人々の賑わいがまち全体に展開
- ・インバウンド需要から国際会議まで対応できる様々なグレードのホテルが立地

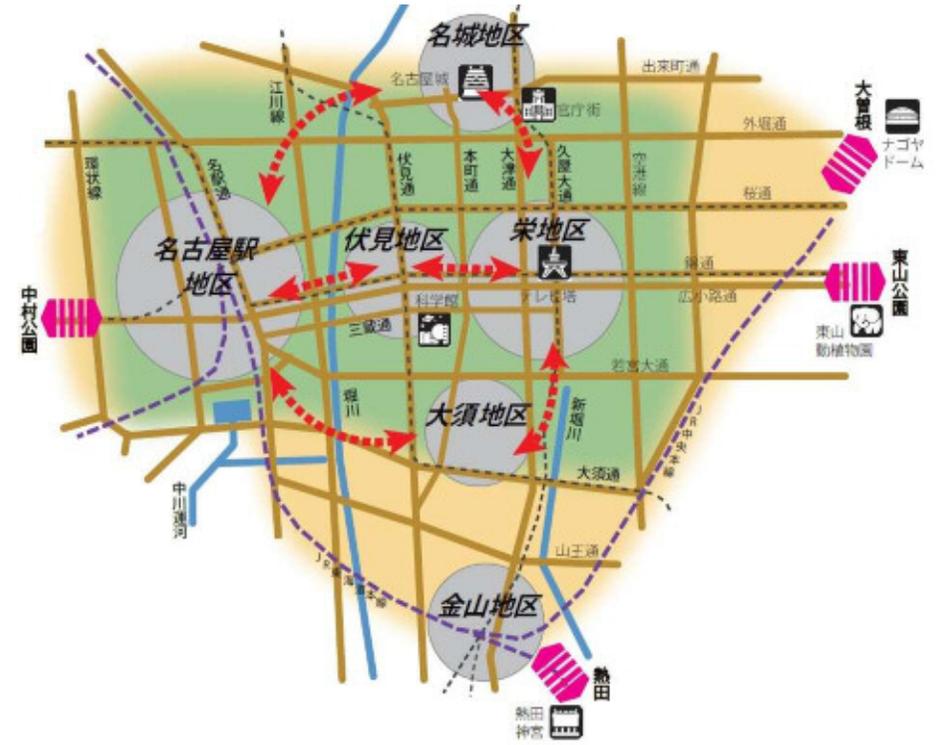
方針3. 都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

将来像

『ゆとりを楽しむ名古屋ならではの洗練された都市生活を満喫するまち』

- ・ユニバーサルデザインの推進などにより道路・公園などの公共空間が一層洗練された空間として再編・創出され、エリアマネジメント等の様々な市民活動が活発化するとともに、世代間の交流も促進
- ・誰もが自分らしく生活・活動できる、様々な価値観やライフスタイル等を受け入れる多様性のある都市を構築
- ・市民にとってハレの場となる高級ブランド店や美しい夜景を楽しめるレストランなど、都心ならではの商業施設が集積

■ 都心の都市構造



凡例

| | | |
|--|-------|---|
| | 都心部 | 都市機能が集積している名古屋駅・伏見・栄地区を中心として官庁街のある名城地区及び大須地区まで含む区域 |
| | 拠点 | ある程度の広がりをもって都市機能が高度あるいは特徴的に集積したエリアとして、地域の特性を活かした名古屋の顔となるまちづくりを目指す地区 |
| | 都市軸 | 都市の骨格を形成する主要な幹線道路及び河川・運河 |
| | 拠点連携 | 各拠点を有機的に結びつけることにより、都心部内の回遊性や都市機能を相乗的に向上させるための拠点間の連携 |
| | 都心ゾーン | 広域的な交通網と結節し鉄道密度の高い地域 |

《名古屋駅地区》

未来を体感し創造する交流のターミナル



国内外から来訪する人々を迎え入れるターミナル駅をつくり、駅周辺の総合交通結節機能の充実と再編を図ることで、約7,000万人交流圏の交通拠点的形成します

【実現に向けて】

- ・リニアの速達性を最大限に活かすよう、鉄道及び道路ネットワークを強化し、名古屋駅へのアクセス性を向上させることで、名古屋大都市圏域及び圏域間における人的交流の円滑化を図ります。
- ・リニアを含む多様な交通モードの乗換えがスムーズにできるよう、駅前広場や地下空間の整備を進め、人を呼び込み、迎え入れる交通結節点としての機能を強化します。
- ・国内外から来訪する人々を迎え入れるターミナル駅として、ユニバーサルデザインなどに基づき、鉄道、自動車、タクシー、徒歩など全ての利用者が満足し、円滑な移動ができる空間を形成します。

スーパー・メガリージョンの中心にふさわしい、多様な人材の交流を促進し、日本を支える新たな価値を生み出す、国際的・広域的な拠点・顔を形成します

【実現に向けて】

- ・新たな価値創造につながる、イノベーション施設やMICE関連施設等の都市機能の集積を促進することにより、国際的・広域的なビジネス拠点形成を図ります。
- ・駅前広場やその周辺において、名古屋圏の魅力伝える案内や文化発信の機能、来訪者の利便性向上に資する機能を強化・誘導し、ダイナミックな交流・もてなしの玄関口を形成します。また、リニア駅上部空間を活用し、人々が集い・憩い・交流する広場を中心とするまちづくりを進めます。
- ・駅前広場や公共空間と沿道建物が一体となって、風格と都市の魅力を感じさせるシンボリックな都市景観の形成を図り、世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤにふさわしい空間をつくります。
- ・浸水対策や帰宅困難者対策、エネルギーの面的利用等、官民連携の取組みを推進し、安心・安全で環境に配慮したまちづくりを進めます。

魅力ある地域資源を活かした多彩なまちをつくり、相互につながることで、一体性のある、歩きたくなるまちを形成します

【実現に向けて】

- ・町家から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様な地域資源の魅力を高め、地域のまちづくりを進めることで、多様で特色あるまちを形成します。
- ・回遊性の高い魅力ある歩行者空間の形成を図るため、快適性の高い歩行者空間の整備や緑化、魅力的な店舗の立地や滞留空間の形成等を行い、人々の賑わいを広げます。
- ・駅前広場やその周辺において、店舗や広場などの効果的な配置により、賑わいを駅からまちへ、まちからまちへつなげます。
- ・都心全体の回遊性向上に資する多様な移動手段の発着地として、拠点の連携強化を進めます。

《伏見地区》
職・住・遊のプラットホーム《栄地区》
訪れる人々が心を解き放つ
都心のオアシス

大規模公園をはじめとした公共空間を洗練されたゆとりあるシンボル空間として再生・活用することにより、エリアの賑わいを都心全体に広げます

民間再開発の機会を捉え、様々な楽しみ方や働き方を提供する商業・娯楽・芸術・文化施設等やオフィス等の都市機能を導入し、多様な人材が集まる環境整備を推進します

エリアごとの様々な特色を活かした多様性のあるまちづくりを進めることにより、名古屋らしさを感じられる都心の魅力を向上します

《名城地区》
歴史と文化に彩られた
名古屋のまちづくりの礎《大須地区》
下町情緒とポップが交錯する
庶民文化の象徴

(2) 新たな路面公共交通システムの実現をめざして～SRT (Smart Roadway Transit) 構想～

■システムの呼称 (SRT)

Smart

快適性などのスマートさを備え

Roadway

路面を走ることで
地上の賑わいを生む

Transit

まちの移動手段

■SRTが目指すもの

○SRTの特徴

- ・魅力あるまちをシームレスにつなぎ、走る空間が豊かなまちの景観を生み出し、また、ストレスフリーで楽しい移動を提供する、新たな都市のシステム
- ・その実現のため、車両、走行空間、乗降・待合空間や運行サービスが相互に連携し、一体的に機能するもの

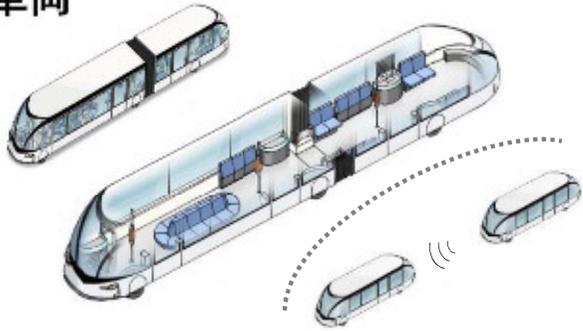
○SRTのコンセプト

- ①みちの再生による都心の魅力向上
- ②地区間の連携を強化する基幹公共交通
- ③まちを訪れる人に新しい移動価値を提供



■ S R T の具体像

○車両



<車両のイメージ>

まちなかでの存在感やシンボル性があり、誰もが安心して快適に乗車できる先進的な車両を新たに開発して導入

- ・ 広い車内と魅力的な車両デザイン
- ・ スムーズな乗降と快適な乗り心地
- ・ 環境にやさしいエネルギー

○走行空間



<走行空間のイメージ>

道路利用者の安全性や利便性に配慮しながら、存在感があり、スムーズで快適な走行環境を創出

- ・ 存在感と快適性の確保
- ・ 様々な道路利用者を考慮した空間配分

○乗降・待合空間



<乗降・待合空間のイメージ>

利用者がスムーズに乗降でき、快適に待てる空間とするとともに、歩道との一体性を高め、まちの情報案内機能を備えることで回遊性や賑わいを創出

- ・ まちの回遊拠点としての機能
- ・ スマートな発着とシームレスな乗降

○路線

魅力ある地域をつなぎ、賑わいを面的に拡大する運行ルートの設定及び乗降・待合空間を整備

- ・ 沿道の賑わいと連携した乗降・待合空間の整備
- ・ 新たな都心軸の明確化

○運行サービス

誰もが気軽に利用できる運行サービスを提供

- ・ 基幹的な路線としての高い運行水準
- ・ 利用抵抗の少ない料金サービス
- ・ 車内移動の少ないスムーズな乗降方式

■導入の進め方

2027年のリニア中央新幹線の開業時に導入効果を最大限に発揮することを目指し、課題解決に必要な検証を行いながら段階的に導入を進める。今後、東西ルート及び周回ルートの事業化にあわせ、この方針に沿った具体的な路線や運行内容などを示した事業計画を策定する。

(3) 都市機能の強化〔プロジェクト①〕

都市計画制度等の活用による民間再開発等により、ビジネス拠点・交流拠点に必要な都市機能を強化

■ 取組み状況

民間によるまちへの投資を促進するため、「民間投資促進包括プラン」を公表（平成30年3月）

「民間投資促進包括プラン」の概要【H30.3公表】

| 対応方針 | 施策 |
|-----------------|---|
| 容積率緩和による都市機能の誘導 | 個別開発に対する支援の充実 ・都心における容積率緩和制度の運用方針の策定 ・都市計画提案に係る面積規模の緩和 など |
| | 面的な容積率緩和制度の活用 |
| | <今後の予定> ・指定容積率の見直し |
| 開発に係る規制見直し等 | 地下街接続基準の見直し |
| | 駐車場附置義務制度の見直し |
| | 環境影響評価の規模要件見直し |
| | <今後の予定> ・地区の価値向上を図る取組み ・税制・金融支援 ・情報提供の充実 |

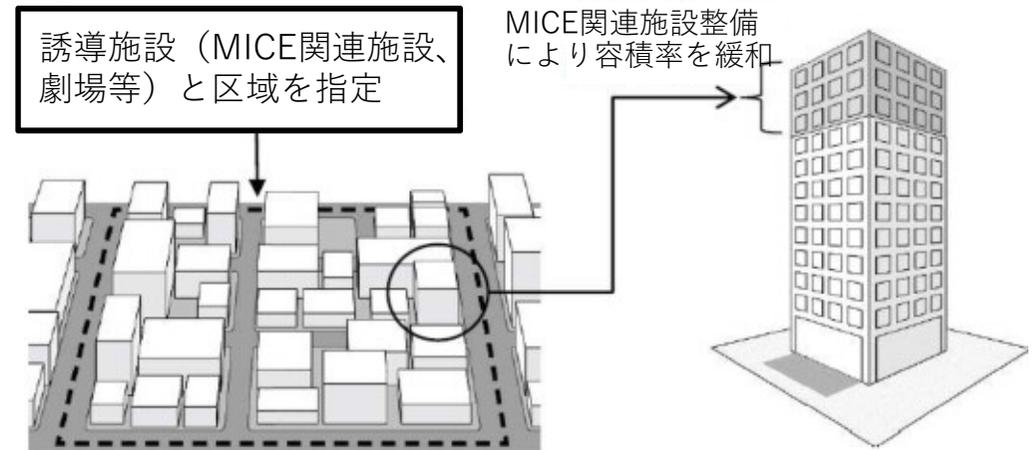
特定用途誘導地区(都心地区)

【都市計画手続き中】

- なごや集約連携型まちづくりプラン（立地適正化計画）を踏まえて定める区域（都心）に広域的な拠点施設を誘導する都市計画で、施設整備により容積率緩和を適用
- 容積率緩和対象(概要)：MICE関連施設、多目的ホール、イノベーション施設、外国語対応医療施設、劇場・演芸場など

★ポイント

- ・個別の都市計画手続きを経ずに容積率緩和
- ・都心に必要な機能（施設）の整備促進



特定用途誘導地区による容積率緩和の例示